

## 様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成22年 5月 27日現在

研究種目：基盤研究(C)  
研究期間：2007～2009  
課題番号：19520318  
研究課題名(和文) スペイン国内に残る中国近世白話文献の学術的価値に関する研究  
研究課題名(英文) Research for the Academic Value of the Chinese Books  
Written in the Vernacular Found in the Library of Spain

研究代表者  
井上 泰山 (INOUE TAIZAN)  
関西大学・文学部・教授  
研究者番号：40139473

研究成果の概要(和文)：西欧諸国の公共図書館や修道院図書館には、かつて中国で出版され、その後宣教師などの手を経て現地にもたらされた古典籍が今なお数多く保管されている。本研究は、それらのうち、特にスペイン国内に残存する中国の古典文学作品を調査し、学術的に重要と思われるものについて現地でマイクロフィルムを入手し、その全文をデータベース化してホームページ上で公開することによって、従来あまり注目されることのなかった価値の高い文献を紹介し、今後の研究の更なる進展に寄与することを企図したものである。

具体的に述べると、まず、調査の対象とした機関は、首都マドリッドにあるスペイン国立図書館、及び、トレドの大聖堂内に付設されている聖堂参事会図書館、この二つの機関に所蔵されている中国の古典文学関連資料を精査し、その中の重要な文献八点を選び出し、その全文データベースを作成して Web 上で公開したものである。

次に、公開対象とした資料は以下の通りである。

(1)説岳全傳(2)飛龍傳(3)好逑傳(4)繡像今古奇觀(5)繡像龍図公案(6)繡像第三才子書(7)雷峰塔(8)千家詩

公開の形態については、(8)の千家詩についてのみ、原書の影印版と、それを新たにデータベース化したものとを対照して示し、それ以外の文献については、データベース化した資料のみを掲載することとした。

研究成果の概要(英文)：There are a lot of Chinese books in European countries. I stayed in Spain for 6 month to research those books about 5 years ago, and got many kinds of important microfilms on Chinese literature. This time I have introduced those books on my home page and opened to the public. They are (1)Shuoyue quan zhuan(2)Feilong zhuan(3)Haoqiu zhuan(4)Xiuxiang jingo qiguan(5)Xiuxiang longtu gongan(6)Xiuxiang di san caizi shu(7)Leifeng ta(8)Qian jia shi these 8 kinds of books.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2008年度	400,000	120,000	520,000
2009年度	300,000	90,000	390,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：中国古典文学・中国近世白話文学・スペイン国立図書館・トレド聖堂参事会図書館・千家詩集・雷峰塔・龍図公案・飛龍伝

## 1. 研究開始当初の背景

本研究の研究代表者は、2005年4月から9月までの半年間、勤務先である関西大学の在外研究員としてイベリア半島に赴き、スペインやポルトガルの主要都市に一定期間滞在し、各地の図書館・修道院などを訪れて、かつて宣教師の手を介して中国から流出した書籍の残存状況を調査した。その結果、マドリッド郊外のエスコリアル宮殿図書館に、明代の長編小説『三国志演義』の貴重な版本が存在することが判明した他、スペイン国立図書館やトレドの聖堂参事会図書館などにも、既に中国本土では失われてしまった貴重な古典籍が今なお多数保管されていることを突き止めた。かつて宣教師の手を介してイギリスやフランスに持ち込まれた書籍については、既にその道の専門家による幾つかの貴重な調査報告があり、研究者にとって一定程度の認識が共有されているが、ことイベリア半島に於ける中国書籍の残存状況については、これまであまり調査されたことがなく、実態は殆ど不明のままであり、かねてより日本及び中国の学界における懸案事項となっていた。また、近年、日本の学界に於いては、中国の古典小説、とりわけ、白話小説の版本に関する研究が盛んになり、未だ発見されていない未知の資料を探索することによって、従来明らかにされることのなかった新たな問題にも光をあてようとする気運が高まりつつあった。そうした状況の中で、貴重な文献が多数残されていると考えられるスぺ

イン国内の状況を早急に調査し、その実態を詳細に報告することは、本研究を開始した当時の喫緊の課題に属するものであった。本研究課題への取り組みは、そうした背景のもとに発案し実行したものである。

## 2. 研究の目的

本研究の最大の目的は、スペイン国内に残る中国の古典文学作品のうち、特に学術上の価値が高いと推定される文献につき、研究者自身が現地に長期間滞在して入手したマイクロフィルムをもとに全文のデータベースを作成し、それを Web 上で公開することによって、広く斯界に新たな資料を提供し、中国文学研究の更なる進展を促すための基礎的なデータを提供することである。具体的な目的としては、以下の項目が挙げられる。

- (1) トレド聖堂参事会図書館に保管されている『千家詩集』につき、その全文をデータベース化し、原書の書影と対照させる形で Web 上に公開する。それによって、これまで存在さえも明らかにされていなかった「天下の孤本」に関する状況を、日本のみならず、中国あるいは世界の中国学界に広く周知する。
- (2) マドリッドにあるスペイン国立図書館に保管されている、数多くの貴重な中国古典文学関連書籍について、学術的な価値が特に高いと判断される書籍を選び、その全文のデータベースを作成する。同時に、それを Web 上で公開することにより、従来あまり知られていなかった貴重な版本の存在を紹介し、それによって、中国本土で既に失われてしまった各種の版本の存在を明らかにする。
- (3) 公開予定の文献は、現存する資料のほんの一部分に限られるが、今回の研究による成果としてそれらを実際に Web 上で公開することにより、従来あまり顧みられることのなかった、イベリア半島内部の

漢籍残存の実態を紹介し、それによって、日本内外の学界に対して、当地に於ける更なる調査の必要性を強く訴えかける。

### 3. 研究の方法

- (1) 上記の目的を達成するために、研究初年度にあたる 2007 年度は、データベースを作成・公開するためのハード面の環境を整備し、併せて、自身のホームページを立ち上げた。これに関しては、全面的に大学院生の協力を仰ぎ、画面のレイアウト作成や記事の掲載方法など、各方面にわたって貴重なアドバイスを受けた。現在運営しているホームページにリンクする形で、資料の公開も行なっている。
- (2) ハード面に於ける環境の整備を進める傍ら、公開予定の文献に関する関連調査も行なった。具体的に述べると、日本国内に同名の書籍が存在する場合、その実物を細かく調査し、スペインに残る版本との照合を通じて、両者の継承関係を考究し、データベースを作成する作業の便に供することとした。こうした作業は、2007 年度から 2009 年度にかけて継続的に行なった。
- (3) 学術的に重要であると判断される中国古典文学関連文献を 8 種類選定し、年度ごとに逐次それらをデータベース化して、既に立ち上げておいた自分自身のホームページ上で全文を公開した。これについても、適宜大学院生の協力を得たが、長年にわたって継続してきた、白話文学に対する校訂作業の経験が大いに役立った。原資料全体の分量が相当に多かったため、データの作成に関しては多くの困難を伴ったが、国内に残る同名の資料との照合を行いながら、順次作業を進め、概ね満足のいく結果が得られた。

### 4. 研究成果

本研究によって得られた成果は、以下の諸点に要約される。

- (1) 従来あまり知られていなかった一部の中国の古典文献について、その全貌が明らかになり、現存する版本との比較対照を通じて、相互の影響関係を考える基礎資料が整った。特に、その資料を Web 上で公開することは、時空を超えて恒に資料を提供できる利点があり、今後関係者によって当該文献が広く利用されるものと思われる。

- (2) 中国で既に失われた、所謂「天下の孤本」を新たに蘇らせることにより、中国文学史・出版文化史の空白の一部を埋めることができた。具体的に言えば、トレド聖堂参事会図書館で新たに存在を確認した『千家詩集』は、従来知られていた同名の書物とは全く体裁を異にした希有の版本であり、明代の出版文化の実態を窺うための貴重な資料である。この点について斯界の判断を仰ぐため、研究代表者はかつて書誌学関連の専門誌に論文を投稿した結果、掲載が認められ、その重要性を共有するための道を拓くことができた。

- (3) 本研究の開始前及び開始後に、日本及び中国の学会や大学で今回の研究成果の一部について講演することにより、従来不明とされてきたイベリア半島内部の漢籍残存状況を広く斯界に周知することができた。具体的に言えば、日本中国学会に於いて、招待講演の形でイベリア半島に於ける調査報告を行ない、また、中国の復旦大学に於いて研究発表や講演を行うことにより、本研究の意義と成果を国内外の専門家に広く認識してもらうことができ、結果的に、研究者相互の交流を促進することにつながった。なお、中国に於ける講演の様子は、上海の新聞『上海早報』でも報道された。

- (4) 上記の講演の他に、本研究の成果を各種の論文にまとめて出版することにより、本研究の全貌を公開することができた。具体的に言えば、イベリア半島に於ける漢籍調査の内容を様々な視点からまとめた論文集を『漢籍西遊記』の書名のもとに関西大学出版部から公刊し、本研究の細部についてもこれを一般に広く公開することができた。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① 井上泰山、中国の白話文学に関する諸問題、関西大学文学論集、査読無、59 巻 4 号、2010、65-79
- ② 井上泰山、日本人与『三国志演義』～江戸時代を中心～、復旦学報 (社会科学版)、査読有、第 1 期、2008、1-8
- ③ 井上泰山、リスボン国立図書館蔵『中国語・ポルトガル語問答集』について、関西大学文学論集、査読無、58 巻 1 号、2008、11-34

- ④ 井上泰山、日本人と『三国志演義』～江戸時代を中心として～、関西大学中国文学会紀要、査読無、第 29 号、2008、19-38
- ⑤ 井上泰山、私と『三国志演義』研究(下)、関西大学文学論集、査読無、57 卷 3 号、2007、77-95

〔学会発表〕(計 1 件)

- ① 井上泰山、流传海外中国古籍の発現与漢学研究の新発展、復旦大学古籍整理研究所講演会、2007 年 5 月 16 日、復旦大学(上海)

〔図書〕(計 2 件)

- ① 井上泰山、上海古籍出版社、『三国志通俗演義史伝』(上下)、2009 年、1416 頁
- ② 井上泰山、関西大学出版部、漢籍西遊記、2008 年、381 頁

〔その他〕

ホームページ等

<http://www2.ipcku.kansai-u.ac.jp/~taizan/index2.html>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

井上 泰山 (INOUE TAIZAN)

関西大学・文学部・中国学専修・教授

研究者番号：40139473